会　告

○平成18年度農業土木学会賞候補の推薦について（再々々）……67
○日本農学賞候補の推挙について（再々々）……67
○第22回水土技術セミナー「農業農村整備事業にともなう環境評価手法；環境評価のノウハウ」
　―農村の水辺の生きもの（魚類，昆虫，植物）―（再）……67
○第22回海外事情講演会「中国の農業水利の現状と今後の展開」―日中農業水利交流―（第1報）……67
○農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い……68
○農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について……69
○農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について……70
○投稿原稿の閲読状況が確認できます！……70
○国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」
　の配布について……70
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め……71
○農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します……71
○学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について……73
○あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか―平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集―……73
○第54回北海道支部研究発表会の開催について（再）……74
○第30回北海道支部シンポジウムの開催について（第2報）……74
○第34回中国四国支部研修会・第29回地方講習会の開催について（再）……74
○平成17年度第44回土壌物理研究部会研究集会の開催について……76
○第18回水文・水環境研究部会シンポジウムのご案内……76
○平成17年度農村道路研究部会研究集会および現地見学会の開催について……76
○第4回農村研究フォーラム開催要領（第2報）……77
○第52回風に関するシンポジウムの開催案内および講演募集……78
学会記事……80

農業土木学会（本部）行事の平成17年度計画

農業土木学会(本部)17年度行事について，下表のように計画しています。奮って参加下さるよう，お待ちいたしております。
のマークが付されているものは農業土木技術者継続教育認定プログラム，または認定申請中( )を表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
平成17年10月26～28日	高度技術セミナー実行委員会	第22回水土技術セミナー	農業農村整備事業にともなう環境評価手法	つくば市	73巻8号

第73巻10号予定
展望：施設管理から地域管理の時代へ：中條　康朗
小特集：施設管理の20年の歴史を振り返る
①土地改良施設管理の充実・強化：須田　康夫他
②農業水利施設の公共性，公益性に鑑みて講じられた新たな支援策：佐藤　準他
③依頼報文：土地改良区の管理体制整備のための取組み：内村　重昭他
④性能設計と予防保全対策：大串　和紀他
⑤今後の農業水利施設の維持管理施策について：美濃　眞一郎他
座談会：施設管理室の20年を振り返って
技術リポート
北海道支部：北空知地区における農業用無動力ポンプについて：神　香織
東北支部：二ツ石ダムの軟岩基礎及び被圧地下水に係る検討：竹谷　喜代春
関東支部：浅層無勾配暗渠による低湿地圃場での水田汎用：小柴　伸夫
京都支部：伐採木の土取場緑化への再利用：小寺　徹
中国四国支部：稗原ダムの試験湛水による基礎処理評価：岡村　茂
九州支部：広瀬久兵衛の足跡：山田　有一
講座：バイオマス利活用（その5）：講座：バイオマスの新しいエネルギー変換技術：小川　紀一郎
小講座：ストックマネージメント：関藤　博臣
私のビジョン：農業水利施設のストックマネジメントのあり方（他分野から学ぶべきこと）：難波　和聡

農業土木学会関連行事予定

平成17年10月14日	土壌物理研究部会	第44回研究集会	環境修復と土壌物理	北海道大学	73巻9号
平成17年10月19日	中国四国支部	第60回支部講演会		高松市	73巻6,7号
平成17年10月20日	関東支部	第56回支部講演会		甲府市	73巻6,8号
平成17年10月25,26日	中国四国支部	第34回支部研修会：第29回地方講習会	「土地改良施設の保全と維持管理について」「新たな食料・農業・農村基本計画」等	米子市	73巻8号
平成17年10月27，28日	京都支部	第62回研究発表会		金沢市	73巻5,7号
平成17年10月27日	九州支部	平成17年度講演会（第86回）・シンポジウム		長崎市	73巻7,8号
平成17年11月7,8日	九州支部	第28回地方講習会・第36回支部研修会	「土地改良事業計画設計基準」の改定の解説，「新たな食料・農業・農村基本計画」の解説	宮崎市	73巻8号
平成17年11月8，9日	東北支部	平成17年度東北支部総会・第49回研究発表会並びに第39回支部研修会・第29回地方講演会		盛岡市	73巻7,8号
平成17年11月10～11日	農地保全研究部会	第26回研究集会	棚畑および下流地域における農地と環境の保全	鹿児島市	73巻7,8号
平成17年11月17日	北海道支部	第30回シンポジウム	北海道の農業生産基盤のこれから―新たな食料農業・農村基本計画における農業土木の役割―（仮）	札幌市	73巻9号
平成17年11月17,18日	水文・水環境研究部会	第18回シンポジウム	農林地および広域の水文・水環境	茨城大学農学部	73巻9号
平成17年11月	資源循環研究部会	平成17年度研究発表会		幕張メッセ	73巻6号
平成17年11月	農業水利研究部会	研修会			
平成17年11月24，25日	農村道路研究部会	平成17年度研究集会および現地見学会		名古屋市	73巻9号
平成17年	材料施工研究部会	第43回シンポジウム			
平成18年1月25日	北海道支部	講習会		札幌市	
平成18年3月	水土文化研究部会	第3回水土文化研究部会	先人達の「水土の知」	農業工学研究所	

学会誌73・74巻の小特集・特別企画のテーマ

小特集テーマ			要旨締切（A4判 1,500字以内）	原稿締切（刷り上り **4ページ厳守**）
73巻	10号	施設管理の20年の歴史を振り返る（仮）	公募なし	
	11号	農業水利施設のストックマネジメント（仮）	公募終了	
	12号		公募なし	
74巻	1号	住民参加型の地域再生（仮）	公募終了	平成17年8月15日
	2号		公募なし	
	3号	地域資源の保全と農業土木（仮）	平成17年9月9日	平成17年10月15日
	4号	美しい里づくり―景観法施行を背景として―	平成17年9月22日	平成17年11月15日
	5号	農業土木の国際化のあゆみ（仮）	平成17年10月25日	平成17年12月15日
	6号	大会関連　関東支部（仮）	公募なし	
	7号	湿地・湿原関連	平成17年12月22日	平成18年2月15日
	8号		公募なし	

小特集のテーマは仮題となっておりますので，予告なく変更することがございます。会告71ページに掲載されている特集の趣旨をお読みいただいた後，要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には，73巻1号および農業土木学会ホームページに収載の「農業土木学会誌投稿要項」，「農業土木学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上，ご投稿ください。

平成18年度農業土木学会賞候補の推薦について（再々々）

平成18年度の農業土木学会賞（上野賞を除く）を，第73巻6号，p.80の募集要項に則って，推薦書によりご推薦下さい。

締切りは，**平成17年10月末日**となっております。推薦書様式は学会HPをご参照下さい。

日本農学賞候補の推薦について（再々々）

日本農学賞候補を，本誌第73巻第6号，p.79の推薦取扱規程に則って，ご推薦下さい。締切は，平成17年**9月末日**です。

第22回水土技術セミナー「農業農村整備事業にともなう環境評価手法；環境評価のノウハウ」（再）
―農村の水辺の生きもの（魚類，昆虫，植物）―

農業土木学会高度技術セミナー実行委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

近年，農業農村整備事業の実施に当たり，環境への配慮が不可欠となっています。本セミナーでは，配慮すべき環境として，水質，動植物の生態系，景観等の主要な環境項目をとりあげ，調査から解析・とりまとめの方法まで実習を中心に講習します。

そのうち，本年度は，シリーズの3回目として水辺の生物調査の実際についてセミナーを開催します。行政現場や業務で種々の環境問題に接する技術者の皆さんにとって，有益な学習となることと信じています。奮っての参加をお待ちしております。

記

1. テーマ　「環境評価のノウハウ　―農村の生きもの（魚類，昆虫，植物）―」

2. 開催時期　平成17年10月26日（水）～28日（金）

3. プログラム

10月26日（水）　午前　セミナー概要，講義
　　午後　講義
10月27日（木）　午前　現地演習
　　午後　現地演習
10月28日（金）　午前　室内演習
　　午後　まとめ，修了書授与

※　講師は，（独）農業工学研究所のそれぞれの専門家です。

※　天候不良の場合には，実習は室内で行う場合があります。

※　長靴，帽子，作業服等の汚れても良い服をご用意ください。

4. 場所　講義：つくば市内または石岡市内
　　調査の実習：茨城県恋瀬川流域

5. 宿　泊　つくば市内または石岡市内のホテル

6. 募集人数　20名

7. 受講費　会　員50,000円（消費税 5％，テキスト代を含む）
　　非会員60,000円（消費税 5％，テキスト代を含む）

8. 募集締切　平成17年9月20日（金）

9. 申込先　農業土木学会高度技術セミナー実行委員会担当宛
　　〒105-0004　東京都港区新橋5-34-4
　　☎03-3436-3418　FAX 03-3435-8494
　　申込用紙は，学会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp）の各種行事参加申込書をご利用ください。

第22回海外事情講演会「中国の農業水利の現状と今後の展開」（第1報）
―日中農業水利交流―

農業土木学会国際委員会

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

海外事情講演会を下記の通り開催することといたしました。会員各位のご参加をお待ちしております。

記

1. 趣旨

中国は，人口が2005年に13億人を超え，経済も2004年で9.5％の成長率となるなど，大きな発展を遂げています。また，今後，人口増加に加えて食生活の高度化による食料需要の増加傾向はますます強くなることが予想され，中長期的な食料の安全確保が国家的な課題となっています。これは単に中国の国内問題であるばかりでなく，わが国を含む国際社会にとっても食料安保上の重要な問題となるでしょう。

（財）日本農業土木総合研究所と中国水利部は，1981年以来20年余にも及ぶ農業水利分野の技術交流を行っており，近年は日本の土地改良区制度を含めた参加型灌漑管理など，農業水利管理体制に着目した交流を行ってきました。

今般，中国水利部農業水利司幹部が本交流事業で来日されるこ

ととなり，中国農業水利分野の現状・課題等について講演をしていただくことになりました。

農業の基礎である農業水利分野を中心に，中国農業をとりまく諸状況について報告をしてもらい意見交換をすることは，今後の中国農業の発展，ひいては，日本の食料安保等の政策を検討する上でも有意義であると考え，広く関係者に情報収集の場を提供できるよう，本講演会を日本農業土木総合研究所と共同で開催することとしました。

2.　共催

農業土木学会国際委員会，日本農業土木総合研究所

3.　期日　平成17年11月10日（木）　午後

4.　会場　農業土木会館大会議室

5.　定員　70名程度

6.　申込み・問合せ先　農業土木学会担当（菊辻）

☎03-3436-3418　FAX 03-3435-8494

詳細につきましては，追って掲載致します。

農業土木学会災害対応調査団専門別調査団員登録についてのお願い

農業土木学会災害対応特別委員会

農業土木学会では，近年における地震，豪雨等による災害が各地に発生し，農地・農業用施設等に甚大な被害をもたらしている状況に鑑み，それら災害の原因究明，復旧対策工法の採用等に対する支援を行う組織として，災害対応特別委員会を設置しました。

この災害対応特別委員会では，①　農地・農業用施設に甚大な被害が発生した自然災害，②　学術的見地から緊急調査が必要と判断される自然災害，に対して，災害発生後，直ちに災害対応調査団を派遣し，調査の実施，復旧支援を行う体制を整備することとしました。

この災害対応調査団の派遣は，以下の条件としました。

①　調査団の団員は，高度な専門知識を有する農業土木学会員とする。

②　調査団員は，候補者名簿にリストアップされた者から選定する。

③　調査団の派遣期間は，原則2～3日とする。

④　調査団派遣に関わる旅費は，農業土木学会が後日精算する（年度予算限度額300万円）。

⑤　調査団員に対して，調査に必要と考えられる保険を掛ける。

⑥　調査団は，調査結果を速やかに報告する。

上記のことから，この災害対応調査団が構成される場合のメンバーに，皆様方の登録をお願いするものです。登録いただいた場合には，災害対応調査団候補者名簿（2年毎更新）に記載して，緊急災害等の場合に現地調査を行って頂きます。

上記の趣旨をご参照の上，学会事務局宛 FAX 03-3435-8494, E-mail　saigai@jsidre.or.jp でお申込み下さい。右記様式によりお申込下さい。多数の応募をお待ちしております。

専門分野：①. 水理，②. 水文・気象，③. 土壌物理，④. 土質，⑤. 地質・地理，⑥. 環境，⑦. 地域（農村）計画，⑧. 一般，⑨. 灌漑排水，⑩. 農地造成，⑪. 農地整備，⑫. 農地保全，⑬. 水産土木，⑭. 材料・施工，⑮. 農業機械，⑯. その他

なお，登録頂いた個人情報は，災害対応調査にのみ活用し，プライバシー保護の観点から，適切に取扱います。

（社）農業土木学会　宛
FAX：03-3435-8494
E-mail:saigai@jsidre. or. jp　　提出年月日　年　月　日

災害対応調査団専門別調査団員登録申込み票

登録者氏名	
フリガナ	
生年月日	（西暦）
会員番号	
所　属	
役　職	
勤務先住所	〒　－
電話番号（勤）	（　　）
FAX 番号（勤）	（　　）
E-mail（勤）	
自宅住所	〒　－
電話番号（自）	（　　）
E-mail（自）	
専門分野	希望の専門分野を丸印で囲んで下さい（複数可）
	①水理　②水文. 気象　③土壌物理　④土質　⑤地質. 地理　⑥環境
	⑦地域（農村）計画　⑧灌漑排水　⑨農地造成　⑩農地整備　⑪農地保全
	⑫水産土木　⑬材料. 施工　⑭農業機械　⑮その他
活動の範囲	（例）九州ブロック　　（例）○○県
主な略歴	（例）災害調査団　　（例）県調査団

登録頂いた個人情報は，災害対応調査にのみ活用し，個人情報保護の観点から，適切に取り扱います。

農業土木技術者継続教育機構による通信教育の試行開始について

農業土木学会行事企画委員会
農業土木技術者継続教育機構通信教育部会

1.　趣旨

農業土木技術者継続教育制度（以下「機構」という。）は本格的な運用開始後４年目に入り，会員数も7,500名と増加してきています。しかしながら，業務の多忙や身近な研修機会の不足などにより，CPD単位取得ができない方が多くいらっしゃいます。このことにより，在宅で手軽に参加できる方法を求める声が寄せられており，農業土木学会員等を主体に気軽に研鑽できる教育制度の創設が求められています。

そこで，学会，機構双方に入会している方のCPD取得機会を増加するため，多くの農業土木技術者が入会している農業土木学会の学会誌を活用した通信教育の実施を検討してきました。このたび，本格的なサービスに向けて通信教育を試行することになりました。

2.　具体的な方法

(1)開始時期と試行期間

学会誌に毎号問題を掲載し，メールにて回答する方法で平成17年10月号より開始し,6ヵ月間試行を行います。

(2)参加会員の事前募集

この試行に参加を希望の学会員の方は，農業土木学会のホームページ（http://www.jsidre.or.jp）にある**参加申込書**に必要事項を記載してメールにてE-mail:cpd@cpd.jsidre.or.jpあるいはFAX 03-5777-2099へ返信願います。

今回の試行が成功し，本格サービスに移行するためには，多くの会員の参加が必要です。周囲の方に声をかけていただき，多数のかたのご参加を希望します。

今回は試行なので，参加会員になることによる経費は不要ですが，本格運用の場合は，実費をご負担いただく方向で，検討中です。

各号ごとに，正答率によって異なるCPD単位を付与し，次年度のCPD登録に自動的に加算します。

なお，これを機会に農業土木学会，機構への入会を希望される方は，同様にホームページ（http://www.jsidre.or.jp，http://www.jsidre.or.jp/cpd）に申込み様式がありますので，ご記入の上お申込み下さい。

(3)申込期限　平成17年９月末

(4)試行の事務局

試行の事務局は機構の評価委員会内部に設置する試行部会および機構事務局が担います。

試行部会の部会長は評価委員会幹事長が当たり,部会員は経験,技術力等卓越した者を部会長が指名し,6名程度の体制とする予定です。また，採点やCPD記録の整理などは機構事務局が対応します。

農業土木技術者継続教育機構　通信教育の試行会員の申込み書

学会員番号	98012345
継続教育会員番号	L 21234
ふりがな	つうしん　たろう
氏名	通信　太郎
所属	○○農政局△□農業水利事務所×△課

通信教育の回答様式

回答する問題の掲載された学会誌の番号		Vol	74	No
学会員番号	L 21234	10	月号	
継続教育会員番号	つうしん　たろう			
氏名	通信　太郎			

回答欄　正解と考える番号を書き込んでください。

問1	1	問2	2	問3	4	問4	2
問5	3	問6	3	問7	4	問8	1
問9	4	問10	2	問11	2	問12	3
問13	1	問14	3	問15	1	問16	4
問17	2	問18	1	問19	1	問20	4

問題の量，質に関する質問・意見の欄

(5)試行の内容

毎号学会誌に３ヵ月前の学会誌の報文を主体（必要に応じて４ヶ月前も活用）に事務局が作成した問題を掲載します。問題は択一式とし，毎回20問を掲載します。一つの報文から数問，報文の事実的内容から問題を作成します。問題の必要ページ数は２ページ程度を予定しています。

回答は，メールにて機構へ返信し，採点して月単位で７割正解で１CPD，満点で1.5CPDを計上し，６ヵ月間行うと毎号７割以上の正答割合で６CPD，毎号満点で９CPD単位が得られ，それを継続教育記録として登録します。

回答は技術者倫理に則り，自らの責任において作成していただきます。

(6)試行の評価と本格サービスへの移行

試行の結果より，課題，改善点等を把握し，必要に応じ修正を加えた上で本格サービスに移行します。

農業土木学会論文集印刷用（完全版下）原稿作成について

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集では，平成10年4月1日以降受付の論文から，掲載適となった論文の最終原稿を**A4版完全版下**で提出いただくこととなっております。しかしながら，規定の書式に則って作成されていない原稿がいまだ多く寄せられております。これらにつきましては，これまで事務局から修正のお願いをし，印刷して参りましたが，昨今，印刷の質が非常に悪いというご意見が多数事務局に寄せられております。

論文集編集委員会では，平成10年からすでに7年を経ており，現在はもう過渡期でないとの判断から，下記のように対応させていただくこととなりました。

投稿者の皆様のご理解とご協力をいただきますよう，よろしくお願いいたします。

記

1. 論文集の品質の向上を図るため，掲載適となった論文の**最終A4版完全版下原稿**が，投稿の手引き（学会ホームページに掲載）に則って作成されていない場合は，再提出をお願いします。
2. 再提出されない場合には，掲載を見合せることもありますので，ご注意下さい。
3. 完全版下原稿を作成されることが困難で，かつ身近に版下作成業務を請け負う業者がない場合には，学会事務局から業者を紹介いたします。

投稿原稿の閲読状況が確認できます！

農業土木学会論文集編集委員会

農業土木学会論文集に投稿中の原稿の閲読状況がホームページで確認できるようになりました。

以下の手順で検索して下さい。

① 学会ホームページ（http://www.jsidre.or.jp）を開く。
② 「論文集」を選択。
③ 「日本語」または「英語」を選択。
④ 日本語の場合は「閲読状況一覧」，英語の場合は「List of papers under reviewing」を選択。
⑤ 投稿した年度を選択（受領ハガキに表示されている受付番号の上2桁が年度を表しています。例：「04101」の場合は，「2004年度」を選択）
⑥ PDFファイルの「閲読状況一覧表」（受付番号，閲読回数，閲読依頼日，閲読返送日）が表示されますので，自分の受付番号から閲読状況を確認してください。

国際学会「国際水田・水環境工学会」入会のお願いと国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」の配布について

農業土木学会では，2003年1月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会(国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering: PAWEES）を設立，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2005年9月末にはVol. 3, No. 3が発刊予定です。

本ジャーナルは，モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文，技術論文が多数掲載されますので，研究者のみならず，各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。たくさんの方々が国際学会へ入会されることを望みます。

掲載論文の分野は，次のように幅広い内容となっています。

① 灌漑（水配分管理，水収支，灌漑施設，栽培管理）
② 排水（排水管理，排水施設）
③ 土壌保全（土壌改良，土壌物理）
④ 水資源保全（水源開発，水文）
⑤ 水田の多面的機能（洪水調節，地下水涵養など）
⑥ 生態系の保全（水生，陸生動植物の生態系）
⑦ 地域計画（農村計画，土地利用計画など）
⑧ バイオ環境システム（水田農業と水環境，土壌環境，気象環境）
⑨ 水田の多目的利用（田畑転換，施設園芸）
⑩ 農業政策（農村振興，条件不利地の支援策など）

水田農業を通した国際的な研究交流，情報交換の場として，皆様の国際学会への入会をお勧めします。

国際学会に入会されますと，会員には国際ジャーナルが，無料

で配布されます。

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

発刊スケジュール：2003 年 3 月創刊，以後 3 カ月ごと

国際学会会費：**正会員 12,000 円**/年/4 冊（送料等学会負担）

学生会員（院生含む）8,500 円/年/4 冊（送料等学会負担）

申込先：農業土木学会編集出版部　吉武宛

ホームページ：http://www.jsidre.or.jp

※入会のお申込みは，学会 HP（http://www.jsidre.or.jp/publ/ij/scope.htm）の「5. APPLICATION FORM FOR THE REGULAR MEMBER」にご記入のうえ，メールまたは FAX でお申込みいただけます。

農業土木学会は，300 人の国際学会員を募る義務を負っておりますが，現在会員数は 281 名（9 月現在）と微増はしておりますが，いまだ目標会員数には達しておりません。そのため，編集業務を含め赤字体質となっております。この窮状をお察しいただき，多くの新規入会のお申込をお願いします。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿の勧め

農業土木学会では，2003 年 1 月に日本，韓国，台湾を中心としたアジアモンスーン地域の農業土木関連学・協会および各国際機関等と連携して，新たな国際学会（国際水田・水環境工学会；International Society of Paddy and Water Environment Engineering）を設立し，機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を創刊，2005 年 9 月末には Vol. 3, No. 3 が発刊予定です。

我が国においても学術誌の評価に，SCI（Science Citation Index）の IF（Impact Factor）が利用されており，本国際ジャーナルでも IF の取得により高い評価の定着を目指しています。

また，世界 13 カ国から Editor（13 名）を選出することにより，国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし，さらに国際的な流通を考慮して，国際出版社として著名な Springer-Verlag 社からの刊行です。

掲載論文は，Review，Article，Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

投稿から掲載までの時間を短縮するとともに，SCI 獲得のために年 4 回の発行としております。投稿者は国際学会員に限りますが，**投稿料**，**掲載料などを無料**として投稿者の負担を軽くするように配慮されています。

皆様方の多数の投稿を期待しております。

編集方針：水田農業における土地と水と環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としている。

その分野は，水田農業地帯における灌漑と排水，土壌保全，土地資源や水資源の保全と管理，水田の多面的機能，農業政策，地域計画，バイオ環境システム，生態系の保全，水田保全，田畑輪換等　である。

編集体制：

- **Editor-in-Chief**：Dr. Yohei Sato（Japan）
- **Editors および Editing Board には世界各国から斯界の権威が就任しています。**
- **Managing Editors**：Dr. Yoshisuke NAKANO（Japan），Dr. Nobumasa HATCHO（Japan），Dr. Yoshito YUYAMA（Japan），Dr. Ke-Sheng CHENG（Taiwan），Dr. Chun Gyeong YOON（Korea）

出版社：Springer-Verlag 社（ドイツ）

投稿資格：**筆者全員が国際学会員**であること。

投稿先：農業土木学会気付・中野芳輔宛で受付。

投稿要領等：http://www.jsidre.or.jp に詳細を記載しています。

農業土木学会誌への投稿お待ちしております！小特集以外の投稿も歓迎します

農業土木学会誌編集委員会

74 巻の小特集テーマのお知らせと報文原稿の募集

小特集のテーマに沿った原稿を，次表に従って広く会員から募集いたします。**小特集以外の自主投稿も歓迎します。**

また，今後取上げてほしい小特集のテーマについても，広く募集いたします。なお，小特集のテーマは仮題となっておりますので，予告なく変更することがございます。特集の趣旨をお読みいただいた後，公募原稿要旨を学会誌編集委員会あてにお送りください。

採用された原稿の分量は，**刷上り 4 ページ**となっておりますので，ご執筆の際には**厳守**いただきますよう，お願いいたします。

送付先　〒105-0004　東京都港区新橋 5-34-4　（社）農業土木学会　学会誌編集委員あて

☎03-3436-3418　FAX 03-3435-8494　　E-mail henshu@jsidre.or.jp

学会誌第74巻3号～第74巻8号までの小特集のテーマ（予定）

小特集のテーマ	要旨締切（必着）（A4判用紙,1,500字以内）	原稿締切 **（刷上り4ページ厳守）**
74巻　4号　美しい里づくり―景観法施行を背景として―	〃　9月22日	〃　11月15日
5号　農業土木の国際化のあゆみ（仮）	〃　10月25日	〃　12月15日
6号　大会関連　関東支部（仮）	公募なし	
7号　湿地・湿原関連	平成17年12月22日	平成18年2月15日
8号	公募なし	

74巻 4号テーマ：「美しい里づくり　―景観法施行を背景として―」（仮）

平成15年には農林水産省における「水とみどりの『美の里』プラン21」の策定，平成17年3月には新たな「食料・農業・農村基本計画」の閣議決定，更に平成17年6月には，平成16年公布された景観法の全面施行など，景観も含めた自然環境整備が各種事業に求められるようになってきています。そして，いずれのプランや法律でも，地域の特性を生かした美しさが重要とされています。しかし，具体的にどのように地域づくりを行えば良いのかはあまり明白ではありません。例えば農林水産省は，「美の里づくりガイドライン」を作成し，具体的地域づくりを行う上で大いに参考になります。しかし，あまりに多くの情報を含んでいるために，事業実施者がどこに焦点を絞って事業を実施すれば良いのかが分かり難くなっているのが現状です。

そこで，具体的な美しい里，自然の保全や町並みの保全，農村の新しい美の価値観に基づく創造，などを中心とした整備事例や考え方について，会員の皆様から報文を募集いたします。多数のご投稿をお待ちしております。

74巻 5号テーマ：「農業土木の国際化の現状と方向性」（仮）

趣旨

第3回世界水フォーラム（WWF 3)以降，水問題を中心にアジアモンスーン地帯特有の農業用水の利用形態や食糧生産の場における多面的機能に関する国際的な議論が，国内外で広く行われるようになって来ました。WWF・WWC（世界水会議）やICIDでの議論以外にも，「国際水田・水環境工学会（PAWEES)」，「国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF)」といった学会や組織も発足しました。このような議論の場では，単なる国際問題としての議論のみならず，国内の農業のあり方にまで議論が発展しています。

また，技術面では，海外技術支援において，従来のようなハード面中心のみならず土地改良区制度等の日本の水田灌漑システムの海外への適応可能性等のソフト面の協力が進んでおり，国内においては，ISOをはじめとする国際化が着実に進んでおり，APECエンジニアとも関連する農業土木技術者継続教育や大学でのワシントン・アコード（WA）に準拠するJABEE認定教育プログラムの取組み，国際的動向をにらんだ新しい技術基準の検討など，農業土木に関する国際化は多様性を増す一方です。

そこで学会誌では，農業土木の国際化の現状と今後の方向性について，学会員の皆様が議論するためのたたき台となるような新情報，課題・論点の整理・分析，等の関連報文を募集します。多数のご投稿をお待ちしております。

「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勧める本」の原稿を募集しています！

学会誌には，会員の職場や学校を紹介するコーナーとして，「オフィス便り」・「キャンパス便り」・「私の勧める本」を設け，随時募集しております。多くの会員が身近な情報を提供することにより，学会誌を親しみやすいものにするとともに，気軽に投稿できるコーナーとして活用していただきたいと考えております。

内容は，学会誌としての特徴を持ちつつ，他の機関誌とは違ったもので，できるだけ学会に関係のある内容，たとえば，

オフィス便りは，「事業実施において特色ある技術の導入」・「技術的に工夫した点」や「地域の魅力」，「技術者継続教育」・「技術力の向上」・「技術者倫理」など。

キャンパス便りは，「研究室の研究内容」・「学科紹介」など。

上記の内容を中心に，より広く事業や地域，また大学や研究室の紹介，その他の取組み状況を含めて，職場，学校として特徴のあるものを募集しています。奮ってご投稿ください。

原稿の長さは，刷り上がり1ページ(1,800字程度）で，写真を1～2枚程度入れてください。

「私の勧める本」は，原稿の長さ：1,200字　（写真・体裁等含む）

刷り上がり1ページ以内（原稿には表紙の写真を含めて下さい。）

学会誌掲載待ち自主投稿原稿の掲載について

学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では，受理された自主投稿原稿につきましては，できるだけ受理順に掲載するべく努力いたしておりますが，平成17年7月末時点で，掲載をお待ちいただいている原稿は28本あります。執筆者の方々には，大変ご迷惑をお掛けしていること，深くお詫びいたします。

しかしながら，昨今の財政事情から，学会誌1号分ページ数を縮減せざるを得ず，受理したにもかかわらず，直近の号に掲載することが出来ない状況となっております。

編集委員会では，このような状況を勘案し，当初企画を変更して，自主投稿原稿号を設けることといたしました。

掲載待ちの執筆者には大変ご迷惑をおかけしておりますが，もうしばらくお待ち下さいますようお願いいたします。

なお，ご投稿いただきました原稿の中には，論文集の研究報文に適したものもあると思われます。論文集は受理後，直近の号に掲載することとなっておりますので，今後，論文集へのご投稿もご考慮いただきますよう，よろしくお願いいたします。

あなたの写真で学会誌の表紙を飾ってみませんか

―平成18年「農業土木学会誌」表紙写真の募集―

農業土木学会誌編集委員会

学会誌編集委員会では，平成18年も皆さまからの写真で表紙を飾ることといたしました。つきましては，下記の要領で学会誌第74巻（平成18年1～12月号）の表紙写真を募集しますので，ふるってご応募下さい。

本年もテーマを「水利遺構：先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美」として，公募いたします。下記の趣旨をご理解のうえ，多数の応募をお待ちしております。

なお，単写真だけでなく，組写真による応募も受付けております。組写真では，3～4枚の写真を組合わせて，ストーリー性を持たせた写真にして下さい。

記

1. **趣　旨**　これまで農業土木技術による構造物は，過酷な自然の猛威にさらされながらも，農業経営，防災などの面で人びとの生活を支えてきました。

特に人力に頼るしかない時代に施工されたものをはじめとする用水路，頭首工，堰堤などの水利施設は，わが国の気象条件や複雑な水利用を考えるとき，構造物の設計や施工に高度な工夫と多くの労力が必要であったことが容易に想像されます。

それら多くの構築物の中には，かけがえのない風景を生み出す文化遺産ともいうべき名高いものもありますが，私たちが身近で目にする農村地域にも，規模は小さくとも凛として美しい文化的な技術遺構がいくつも存在しています。

皆さんの目にとまった構造物で先人たちの技術と苦労が垣間見える造形美を学会誌の表紙写真でご紹介ください。

例年の応募状況から，秋季および冬季の写真についても多数の応募をいただけますよう，お願いいたします。

2. **写真の種類**　単写真，組写真いずれもカラープリントで（デジタルの場合は高画質で，ほぼ400万画素以上を目安に），サイズは六ッ切。組写真の場合は，そのことを明記して下さい。
3. **枚　数**　応募点数には制限がありませんが，未発表のものに限ります。
4. **締　切**　平成17年**9月30日**（必着）
5. **審　査**　審査委員会(編集委員と写真家)で12点を選びます。
6. **結果発表**　学会誌74巻第1号で入賞者と掲載号を発表し，入選作品は，平成18年度大会会場でパネル展示します。
7. **賞　品**　入選作品1点につき3万円（表紙掲載料含む)。応募者には記念品をお贈りします。
8. **応募資格**　学会員でなくとも結構ですので，周囲の方々にもお勧め下さい。
9. **その他**　応募写真の裏面にタイトル，郵便番号，住所，氏名，年齢，職業，電話番号，性別，写真のテーマ，撮影場所，撮影月日，撮影データ（フィルム，使用カメラ）を記入して下さい。また，対象物の名称（固有名詞)，対象物をめぐる歴史的背景等の説明(いつ，だれが，どうして等）もお寄せ下さい。

原則として，応募写真は返却いたしません。なお，入選作の版権は，（社）農業土木学会に属します。

10. **宛　先**　〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4（社)農業土木学会
農業土木学会誌編集委員会　「表紙写真公募」係

第54回北海道支部研究発表会の開催について（再）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

1.　期日　平成17年9月29日（木）

2.　会場　札幌市・北海道大学クラーク会館
（札幌市北8条西8丁目）

3.　参加申込み

下記様式により，メール，FAXまたは郵送にてお申込下さい。
参加申込みの締切は，平成17年9月20日（火）です。

所属機関＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

同上所在地＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

申込代表者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿TEL＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

氏　名	所　属	備　考

4.　発表・参加申込先

〒060－8589　北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一　E－mail：kashi@env. agr. hokudai. ac. jp
☎011-706-3641　FAX 011-706-4145

5.　参加費用

研究発表会講演集代　2,000円（当日会場にて申受けます。）

第30回北海道支部シンポジウムの開催について（第2報）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

農業土木学会北海道支部では，「北海道の農業生産基盤のこれから―新たな食料・農業・農村基本計画における農業土木の役割―」と題するシンポジウムを開催します。

基本計画では，食料自給率の向上と安定供給の確保，農業の持続的な発展と農村の振興，農村環境の保全，といった事項に取組むため，「環境保全を重視するとともに，農地・農業用水などの資源を保全する施策を確立すること」が明記されました。これからの農業土木には具体的にどのような取組みが期待されているのか，特に北海道においてどのような展開が考えられるのかを，シンポジウムを通じて考えていきたいと思います。

1.　テーマ　「北海道の農業生産基盤のこれから―新たな食料・農業・農村基本計画における農業土木の役割―」

2.　期日　平成17年11月17日（木）9：30～17：00

3.　会場　札幌市・札幌サンプラザ（札幌市北24条西5丁目）

4.　プログラム（案）

午前の部(9：40～12：00)

基調講演 1「新たな『食料・農業・農村基本計画』と農村振興」

基調講演 2「新たな『食料・農業・農村基本計画』と農業土木の役割」

午後の部(13：00～15：15)

話題提供1「基幹施設の保全管理」

話題提供2「地方自治体／美土里ネットの役割」

話題提供3「北海道内の事例報告」

話題提供4「北海道内の事例報告」

パネルディスカッション(15：30～16：45)

5.　問合わせ先

〒060-8589　北海道大学農学部農業工学科内
農業土木学会北海道支部事務局
担当：柏木淳一　E-mail：kashi@env. agr. hokudai. ac. jp
☎011-706-3641　FAX 011-706-4145

第34回中国四国支部研修会・第29回地方講習会の開催について（再）

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

中国四国支部第34回支部研修会・第29回地方講習会を10月25日（火），26日（水）の2日間にわたり，開催いたします。本研修会・講習会の開催要領・参加申込みについては次のとおりです。多数のご参加をお待ちしております。

1.　課題

(1)支部研修会：『土地改良施設の保全と維持管理について』

(2)地方講習会：『新たな食料・農業・農村基本計画』『土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改定の解説』，『土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改定の解説』

2.　日　時

(1)支部研修会：平成17年10月25日（火）

(2)地方講習会：平成17年10月26日（水）

3.　場　所

米子コンベンションセンター　ビッグシップ
〒683-0043　鳥取県米子市末広町294
TEL 0859-35-8111　　FAX 0859-39-0700
http://www.pref.tottori.jp/bigship/indexj.htm

4.　プログラム

10月25日（火）支部研修会

「土地改良施設の保全と維持管理について」

9：30～　受付開始
10：30～10：50　開会あいさつ
11：00～12：00　（仮題）「施設の総合的な保全管理技術の現状と課題」
農業工学研究所地域資源部部長　高橋順二
12：00～13：00　［　昼　食　］
13：00～14：00　「ブラッシュアップ教育で得られたコンクリート機能診断に必要なこと」
鳥取大学農学部教授　服部九二雄
14：00～15：00　「大井手用水の保全と地域活動」
大井手土地改良区事務局長　有田　斉
（仮題）「貴重な資源（生き物環境）の保全と施設整備
鳥取地方農林振興局地域整備課主幹
奥村義行
15：00～15：20　［　休　憩　］
15：20～16：00　（仮題）「水田という装置を永続的に使いこなす」
鳥取県農業試験場水田農業基盤室長
三原正司
16：00～16：50　「農地・農業用水等の資源保全施策の構築」
農村振興局整備部資源保全検討室課長補佐
村岡　宏
16：50～17：00　閉会あいさつ

10月26日（水）地方講習会

『新たな食料・農業・農村基本計画』『土地改良事業計画設計基準・計画「排水」改定の解説』,『土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改定の解説』

9：30～　受付開始
10：00～10：10　開会あいさつ
10：10～11：10　新たな食料・農業・農村基本計画
農村振興局計画部事業計画課地域計画官
髙居和弘
11：10～12：10　土地改良事業計画設計基準・計画「排水」の改訂の解説
農村振興局計画部資源課課長補佐　原川忠典
洪水解析手法について
元九州大学大学院教授　四ヶ所四男美
12：10～13：10　［　昼　食　］
13：10～14：10　土地改良事業計画設計基準・設計「農道」改訂について
農村振興局整備部設計課施工企画調整室
設計基準第二係長　近藤直樹
14：10～15：10　設計基準「農道」における論点と配慮事項について
北里大学獣医畜産学部教授　今井敏行
15：10～15：20　閉会あいさつ

5.　参加費等

(1)支部研修会

区　分	参加費	昼食代	合　計
会　員	3,000円	1,000円	4,000円
非会員	4,000円	1,000円	5,000円

(2)地方講習会

区　分	参加費	昼食代	合　計
会　員	4,000円	1,000円	5,000円
非会員	5,000円	1,000円	6,000円

6.　問合せ先

鳥取県農林水産部耕地課　企画計画担当　森木，北村
〒680-8570　鳥取市東町1丁目220
☎0857-26-7336（直通）　0857-26-7111（代表）
FAX 0857-37-1281　E-mail：kitamura-h@pref.tottori.jp

7.　参加申込方法

(1)申込書　所定の申込様式により所属機関ごとに取りまとめ，お申込み下さい。
(2)申込締切日　平成17年10月3日（月）
(3)参加費の納入方法　参加申込と同時に次の銀行口座に全額前納でお願いします。
振込手数料については，振込人負担でお願いします。
【振込口座】　振込先　山陰合同銀行　鳥取県庁支店
口座番号　普通　3609738
口座名称　支部研修会　地方講習会
実行委員長　坂根　勇
なお，振込後の参加費用等の返還には応じられませんのでご注意ください。

【申込様式】　中国四国支部研修会・地方講習会参加申込書

所属機関＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
所在地（〒　　－　　）＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
連絡者氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
TEL　　FAX＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

所属	氏名	会員区分	【25日】支部研修会 3,000円（4,000円）	【25日】昼食代 1,000円	【26日】地方講習会 4,000円（5,000円）	【26日】昼食代 1,000円	合計（円）	農業土木技術者継続教育機構個人会員
計		会員 非会員	人 人	人	人 人	人	円	

注）出席および必要な場合は○印，欠席および不要な場合は×印をご記入下さい。（　）：非会員
農業土木技術者継続教育機構の個人会員の方は右端の欄に○印をご記入下さい。

(4)参加申込先

鳥取県農林水産部耕地課企画計画担当　森木，北村

〒680-8570　鳥取市東町1丁目220

☎0857-26-7336（直通）　0857-26-7111（代表）

FAX 0857-37-1281

E-mail：kitamura-h@pref.tottori.jp

(5)宿泊案内

宿泊の斡旋・手配は行いませんので，各自でお申込み下さい。

(6)交通アクセスご案内

JR米子駅より　徒歩約3分

米子空港より　バス約40分

会場専用駐車場はありません

平成17年度第44回土壌物理研究部会研究集会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

1. 日時　平成17年10月14日（金）

2. 場所　北海道大学農学部新棟　多目的室　（W 109）
札幌市北区北9条西9丁目

3. テーマ　「環境修復と土壌物理」（仮題）

＊　翌日の10月15日（土）は，土壌物理学会シンポジウムが開催されます。
http://wwwsoc.nii.ac.jp/jssp3/47thSympo/47Sympo.htm

第18回水文・水環境研究部会シンポジウムのご案内

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

1. 期　日　平成17年11月17日（木），18日（金）

2. 会　場　茨城大学農学部こぶし会館2階研修室
（常磐線土浦駅西口より関東鉄道バス1番乗り場阿見中央公民館行き茨大前下車（所要時間約20分）徒歩1分，駐車場有り

3. プログラム（予定）

11月17日（木）12：30～13：25　受付
13：25～17：30　研究会
18：00～20：00　情報交換会

11月18日（金）
9：30～12：30　研究会

4. 講演内容　農林地および広域の水文・水環境

5. 講演時間　1課題30分程度（質疑応答も含む）

6. 参加費　1,000円（部会誌・応用水文No.18の代金を含みます）

7. 講演申込　平成17年9月30日（金）
申込先は，**10**の研究会・情報交換会の参加申込先と同じです。

8. 講演原稿　平成17年10月14日（金）まで（必着）
原稿はA4サイズ(10.5ポイント40字×40行，マージン：上25mm，下27mm，左23mm，右25mm）の10頁までとし，題名の和文・英文，著者名・所属の和文・英文，abstract (250words以内)，要旨(350文字以内)，キーワード(5～7個)，本文（原則1段組）の順として下さい。A4原稿をB5サイズに縮小し，部会誌「応用水文No.18」としてオフセット印刷します。送付先は下記の研究会・情報交換会の参加申込先と同じです。なお，下記の部会ホームページに原稿サンプルを掲載しております。

9. 情報交換会　11月17日（木）18時から，茨城大学農学部こぶし会館食堂（予定），会費5,000円（予定）

10. 研究会・情報交換会の参加申込み
氏名，連絡先（住所，TEL，FAX，E-mail，所属）および参加項目（研究会・情報交換会）を記載の上，下記宛E-mailまたはFAXで，平成17年11月11日（金）までにお申込み下さい。

〒300-0393　茨城県稲敷郡阿見町中央3-21-1
茨城大学農学部　中曽根英雄あて
☎029-888-8602　FAX 029-888-8602（黒田久雄）
E-mail kuroda@mx.ibaraki.ac.jp.（黒田久雄）

11. 宿泊申込み　宿泊の斡旋は致しません。土浦駅又は荒川沖駅近辺にホテルがあります。

【付記】部会シンポジウムの最新情報および詳細情報は，部会ホームページ（http://ealfor.ans.kobe-u.ac.jp/hydenv/index.html）をご参照下さい。

平成17年度農村道路研究部会研究集会および現地見学会の開催について

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

平成17年度　農業土木学会農村道路研究集会および現地見学会を愛知県名古屋市で開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしています。

1. 主催　農業土木学会農村道路研究部会
後援　愛知県農林水産部

2. 日時

【研究集会】
平成17年11月24日（木）13：00～17：00

【現地見学会】
平成17年11月25日（金）9：00～16：00

3. 場所

【研究集会】　愛知県産業貿易館西館

〒460-0002 名古屋市丸の内 3-1-6
☎052-231-6351
【現地見学会】
愛知県県農林水産部知多農林水産事務所管内
☎0569-21-8111

4. 内容

【研究集会】（平成 17 年 11 月 24 日）
13：00～13：05：会務報告
13：05～14：45：基調講演
『生態系に優しい道づくり』
東京農工大学大学院　教授　亀山　章
15：15～16：30：
研究報告『生態に配慮した農道における新しい道路建設技術の紹介』　土地改良舗装研究会
16：30～17：00：質疑
【現地研修会】（平成 17 年 11 月 25 日）
「環境に配慮した道路建設事例」

5. 参加費

【研究集会】　6,000 円　【現地研修会】　4,000 円

6. 宿泊施設の案内

インターネットで検索いただきたい。

7. 参加申込み方法

下記の申込み様式にて，記入の上，参加の申込みをお願いします。

なお，参加費の振込みは，現金書留，または銀行振込にてお願いします。前納でお願いしたいですが，当日でも受付けます。

【現金書留の場合】
〒183-8509　東京都府中市幸町 3-5-8
東京農工大学農学部　加藤　誠
☎042－367－5756
【銀行振込の場合】
三井住友銀行経堂支店　農道研究部会
会計　竹内　康（たけうち　やすし）
普通　597-6610166

8. 参加申込み締切り日

平成 17 年 11 月 4 まで（時間厳守）

9. 連絡先

〒183-8509　東京都府中市幸町 3-5-8
東京農工大学農学部　加藤　誠
☎042-367-5756　E-mail：mkato@cc. tuat. ac. jp

2005 年度農業土木学会農村道路研究部会集会
および現地見学会参加申込書

氏名						
所属						
電話番号						
メールアドレス						
所在地						
研究集会	参加	不参加		参加	不参加	
現地見学	参加	不参加		参加	不参加	
参加料（合計）						
参加料の支払方法						
領収書の宛先						
CPD 番号（農業土木技術者継続教育機構）						

第４回農村研究フォーラム開催要領（第２報）

農村は頑張る！－農村活力の再生を目指して－

農業土木技術者継続教育プログラム認定申請中

農村地域の活性化のためには，産学官と地域住民の力を結集した連携が必要です。このため，学際的かつ多分野間の情報交流を図り，農村の将来展望を切り開くことを目的に標記フォーラムを開催します。

日時：平成 17 年 11 月 22 日（火）　13：00～17：00
場所：秋葉原コンベンションホール（秋葉原ダイビル内 2 階）
東京都千代田区外神田 1-18-13
主催：（独）農業工学研究所
共催：農業土木学会，農村計画学会，農村生活学会，日本造園学会（予定）
後援：農林水産省，日本学術会議農村計画学研究連絡委員会，日本民俗学会（予定）

1. 開会の挨拶　農業工学研究所理事長
宮本　幸一　13：00～13：10
農林水産省農林水産技術会議会長
甕　滋　（予定）　13：10～13：20

2. 基調講演
「アグリルネッサンスによる農村活力の再生を目指して」
13：20～14：20
山本　雅之（社団法人地域社会計画センター・常務理事）

3. 講　演
「都市住民の農村地域への定住に向けて」　14：20～14：55
大橋南海子（株式会社まちづくり工房・代表取締役）
（休憩）14：55～15：10
「地域景観を活かした農村再生」　15：10～15：45
山本　徳司（農業工学研究所・農村計画部）
「農村再生戦略としてのグリーンツーリズム」　15：45～16：20
荒樋　豊（秋田県立大学・教授）
「農村活力の再生に貢献する農産物直売の取り組み」
16：20～16：55
櫻井　清一（千葉大学・助教授）

4. 閉会の挨拶　16：55～17：00

参加費：無料
お問合わせ先：農村研究フォーラム事務局（農業工学研究所企画調整部内）☎029-838-7675　URL:http://www. nkk. affrc. go. jp/ivent/H 17/H 17 forum/index. html

第52回風に関するシンポジウムの開催案内および講演募集

幹事学会　日本気象学会

共催学会　農業土木学会他

1. 日時　平成18年1月24日（火）
午後1時～5時

2. 場所　気象庁　講堂
東京都千代田区大手町1-3-4（地図参照）
地下鉄東西線竹橋駅4番出口徒歩1分
地下鉄千代田線大手町C2番出口徒歩5分

3. 開催要領
(1)一般講演（講演次官15～20分）
(2)特別講演（予定）
「ウィンドプロファイラによる風の観測（仮題）」
石原正仁気象研究企画室長

4. 参加費　無料

5. 参加・講演申込み　シンポジウムへの参加を希望される方は，気象学会ホームページ（http://wwwsoc.nii.ac.jp/msj/others/News-index.html）から，参加申込み用紙をダウンロードしていただき，必要事項を記入の上，下記申込先までE-mailまたはFAXで送付願います。

6. プログラム　講演申込み締切り後，参加者の皆様に連絡いたします。

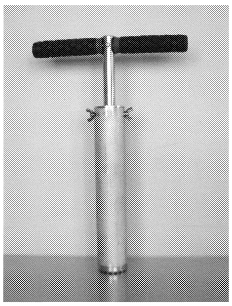
7. 講演発表の申込期限　平成17年11月25日（金）必着

8. 懇親会　シンポジウム終了後，懇親会を予定しています。ふるってご参加お願いいたします（会費3000円は，当日会場で頂きます）。

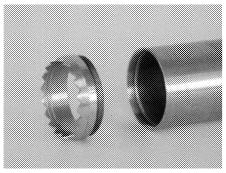
9. 問合わせ先・申込み先
〒305-0052　茨城県つくば市長峰1-1
気象研究所環境・応用気象研究部　三上　正男
Tel/Fax：029-853-8623／029-855-7240
E-mail：mmikami@mri-jma.go.jp

フジワラ
土　壌　採　取　器
コンパクションの少ない！

■土壌採取器(手動式)



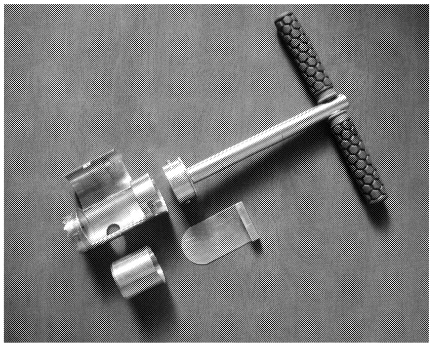
サンプルは透明樹脂
円筒に採取されます



特殊な山形刃先を使用し、コンパクションの発生が少なく、直径φ50mm長さ250mmの土壌採取ができます！

交換可能な山形刃先

■100mlサンプルコア



同じく山形刃先を使用していますので、圧密や破壊の少ない状態で100mlコアサンプルが採取できます。オールステンレス製のため、錆びに対して強くなっています。

「藤原製作所つくば試験圃場」にて実演デモを行っております。

株式会社 藤原製作所
〒114-0024　東京都北区西ヶ原1-46-16
TEL:03-3918-8111　FAX:03-3918-8119

詳しい情報はホームページで！　http://www.fujiwara-sc.co.jp　E-mail:info@fujiwara-sc.co.jp